

パレスチナ支援調整委員会(AHLC)の概要

平成26年9月
中東第一課

1. 基礎情報

- 構成 : 27の国及び国際機関 → ノルウェー(議長), イスラエル, パレスチナ, カルテット, 米, EU, 露, 国連, 日本, 英, 仏, 独, 伊, スペイン, オーストリア, スウェーデン, カナダ, サウジアラビア, エジプト, ヨルダン, チュニジア, トルコ, UAE, クウェート, IMF, 世界銀行(事務局)
- 年2回(通常3月と9月), ハイレベル会合を開催(但し, 本年3月開催されず)。
- 設立経緯 : 93年のオスロ合意後, 国際社会は5年間で総額22億ドルの支援を決定(当時日本は2年間で2億ドルをプレッジ)。この支援をドナー間で調整するために設立。

2. 特徴

- 主要ドナーが定期的に一堂に会し対パレスチナ支援の協議を行う唯一の機会。AHLC会合での議論, 会合後に発出される議長サマリー, 世銀やIMFが提出する経済分析等を自国の援助方針策定に利用。
- 今回は, 和平プロセス停滞やガザ情勢を踏まえ, ブレンデ・ノルウェー外相, ケリー米 국무長官, アシュトンEU上級代表, ハムダッラーパレスチナ首相, 潘基文国連事務総長が出席予定。

3. 参加の意義

- 中東和平は地域の中核的課題であるとともに, 特に本年夏のガザ情勢悪化により対パレスチナ支援の重要性が一層認識される中, 主要ドナー会合である本会合に参加することは, 我が国のプレゼンスを示し, 積極的なメッセージを国際社会に発信する貴重な機会。
- 日本はアジア諸国の中で唯一のメンバー国。地域協力によりパレスチナ経済の自立化を図る「平和と繁栄の回廊」構想や, 潜在的なドナーを発掘しようとするCEAPAD(パレスチナ開発のための東アジア協力促進会合)といった我が国独自のイニシアティブには高い関心。